

スナヤツメ



環境省絶滅危惧Ⅱ類(VU)
法勝寺にて

(撮影：桐原佳介)

毎年4月上旬、各地区で水路掃除が行われる頃、こんな電話がかかってきます。「桐原さん！ヤツメウナギがとれちようけえ、ちよつとみてごしない。」その連絡を受けるたびに、私はいつもほつとします。ああ、今年も海からここまでのぼつて来てくれたんだと。

通称ヤツメウナギと呼ばれるこの魚。1つの目に7つのエラ穴が合わせて八つ目に見えることが名の由来。町内で見られるヤツメウナギの正式な名前は、スナヤツメといえます。環境省によつて絶滅危惧の生き物とされ、県内でも十分な調査がされていません。平成14年までは、町内の正式記録もありませんでした。しかし、私たちが調査を始めてから、平成19年よりほぼ毎年観察できています。

この春、立て続けにスナヤツメの報告が入り、会見小学校の女の子も小松谷川で取れたものを持って来てくれました。立派な大人のスナヤツメでした。平成21年に諸木の水路で見つけて以来の、会見地区2例目の発見に、地元の子供たちがこうして身近な生き物に興味を持っている

ことを大変嬉しく思いました。ちなみに、スナヤツメの稚魚は目がなくエラも未発達で、まるでエイリアンのような顔をしています。

一昔前の南部町には、モクスガニ、サケの仲間、アユ、ウナギなど川と海を往復する生き物がごく当たり前に見られたそうです。しかし河川環境の変化で、今では海から南部町まで辿りつける生き物は、モクスガニとスナヤツメくらいです。これからの季節、川や水路の水草をゆりかごに、スナヤツメの赤ちゃんがすくすくと育っていくことでしょうか。これからも、毎年スナヤツメが南部町にやってくることを願って、また川の生き物探しをしたいと思っています。



スナヤツメの口

自然観察指導員 桐原真希